

**丸岡城周辺
賑わいのまちづくり
ビジョン
— 概要版 —**

2018年3月

〈一般社団法人丸岡城天守を国宝にする市民の会〉

丸岡城周辺 賑わいのまちづくり ビジョンの役割

後世に残していくべき宝(文化財)としての丸岡城の維持・保存と、それを活用した観光まちづくりを共存させ、お天守の魅力や価値を高めると共に、私たち住民の暮らしをより良く豊かにしていくための拠り所になるものとして、一般社団法人丸岡城天守を国宝にする市民の会が策定したものです。

対象エリアは「丸岡城周辺」としています。まずはじめに、お天守を核とした観光まちづくりを進めていきたい、という思いからなるものです。

ゆくゆくは対象エリアの拡大や、他地区・他地域との連携を図り、丸岡全体、坂井市全体の魅力が高まるよう努めていきます。

私たちが考える「観光まちづくり」とは・・・

- 地域が主体となって行う継続的な「まちづくり活動」と「外から人を呼び込む活動」が一体的に取り組まれる「住んでよし、訪れてよし」のまちづくり
- 地域資源を活かして住民や観光客に上質な体験を提供し、人の行き交いを継続的に生み出すことで、地域の経済活動と賑わいが向上するまちづくり
- 地域の課題が「観光」によって個性に変わり、住民の暮らしの質が向上するまちづくり

ビジョンの視座と時間軸

実現したい未来:50年後

※長期的、俯瞰的に想像した、住民や関係者で共有したい丸岡城周辺の理想的な未来の姿、あり方

まちづくりの理念と基本方針:10年間

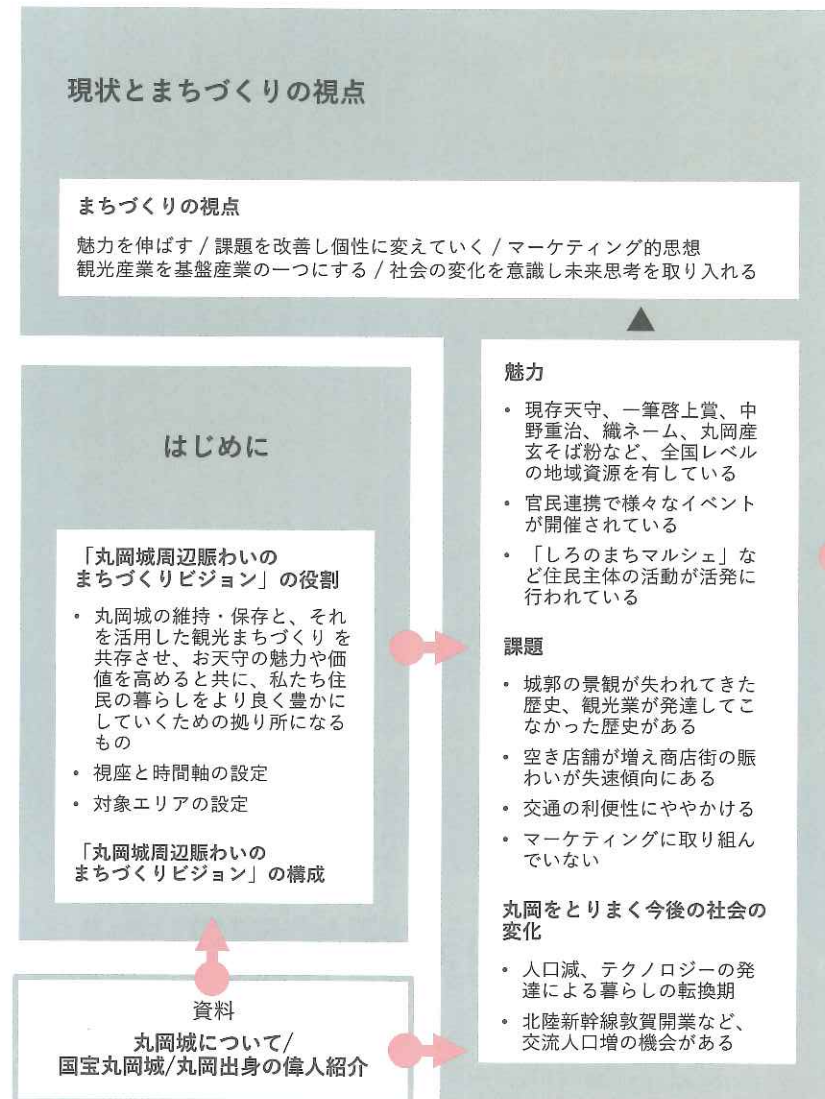
※描いた未来が形づくられるように、住民や関係者が一体的に観光まちづくりを進めていくための
目指す方向

施策:5年間

※まちづくりの基本方針に基づいて、重点的に着手していきたい第一歩の取り組み

「丸岡城周辺賑わいのまちづくりビジョン」の構成

完全版のビジョンは次のような構成となっています。



実現したい未来として 50年後の丸岡城周辺の将来像を 想像します。

丸岡城がまちのコアとしてシンボルになっており、
それにふさわしい風格のあるまちになっている
心地よく賑わいのあるまちになっている

〈 景観 〉

丸岡城が美しく感じられる景観がつくられている
お堀や石垣が復元され、水辺空間による
うるおいのある景観がつくられている
内堀五角形の遊歩道や門の復元など、
城郭が浮かび上がる景観がつくられている
美しい景観を住民が誇りに思い味わっている

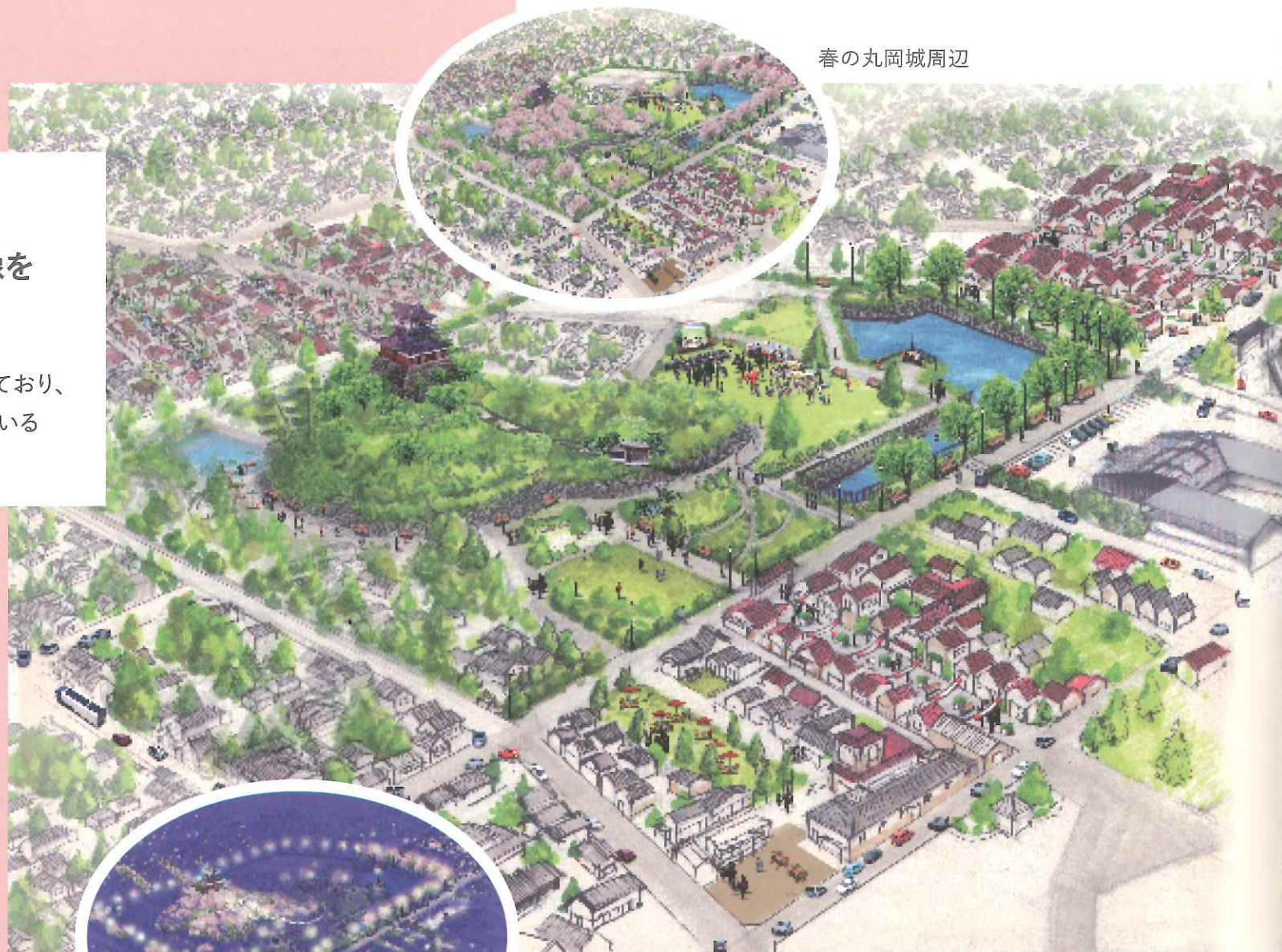
〈 産業・暮らし 〉

観光が基盤産業の一つとなり、
観光によってまちの活力が向上し、
住民の暮らしがよりよく豊かになっている

《丸岡城内堀公園》が憩いの場となり、
人々が思い思いに楽しんでいる

丸岡での暮らしを楽しみながら、
まちづくりなど様々な活動に主体的に参加している

春の丸岡城周辺



ライトアップされた夜の丸岡城周辺

50年後の丸岡城周辺イメージ

※イメージを伝えるためにデフォルメしています

※特定の場所、スペースを具体的に描いているものではありません

まちづくりの 理念と基本方針

前頁で描いた将来像を実現していくために
今後10年間を一つの節目とし
目指していきたいまちづくりの方向性をまとめています。

【理念】

丸岡らしさをつくり、丸岡城もまちも 次世代につなぐ

丸岡らしさ＝ブランディングに取り組みます。「丸岡らしいよね」という
感覚を共有し、形にして丸岡城もまちも次世代につないでいきます。

基本方針① やっぱりお天守がまちのシンボル

◎内堀五角形内を人が集まり佇む憩いの場とする

内堀五角形内をまちのコアエリア、一つの「公園」(ビジョンでは区別するため、仮に《丸岡城内堀公園》と表現します。)ととらえ、住民や観光客の憩いの場として、多様な人々が集まり、交流し、佇み、賑わいをもたらす場、そこで過ごす時間が豊かなものとなる、人々に利用される場にします。

お堀や門の復元についても《丸岡城内堀公園》の一部として位置づけます。復元を通して守っていききたい遺産と、刻んでいききたい今をどう融合させていくかを考えいく必要があります、ビジョンの完全版では《丸岡城内堀公園》の方向性と公共空間における環境整備案を提案しています。

《丸岡城内堀公園》の方向性

丸岡城の魅力・歴史を感じとれる／内堀五角形を遊歩道に／桜を重要な要素に／お堀と門の復元を目指す／多様な変化が楽しめる空間／周辺の価値が上がり賑わいができる／内堀五角形内の公共空間で建物の規制を設ける／

空き家を積極的に活用する／空き地などをポケットパークで活用する

環境整備案

ふれあい広場でお堀の一部復元を目指す／一筆啓上茶屋前駐車場を除却／一筆啓上茶屋を移設／丸岡歴史民俗資料館を除却し、資料館の機能を周辺に分散させる／霞ヶ城公園の範囲を拡大し、リノベーションする／お天守前公園の活用

◎お天守の美しさを際立たせる引き算の景観づくりで 価値を高めていく

お天守周辺の樹木を剪定／チケット売り場(管理事務所)の見直し／説明板や案内板などの設置の見直し／電線の整理や地中化でよい景観づくり

◎丸岡城本丸までの交通アクセスを工夫する

最寄り駅からの交通アクセスを工夫／丸岡城本丸への入口を分かりやすく

また、手紙の館などの公共施設と周辺で一番抜けのよい空間が広がっており、お天守の遠景が楽しめる北東エリア、商店街とどこか懐かしい昭和時代の雰囲気に残り、お天守の近景が楽しめる街中の南西エリアを中心に賑わいの創出化に取り組みます。

基本方針② 観光まちづくりに力をいれる

観光を通してまちに活力を生みだし、より豊かなまちへ

◎丸岡城のポテンシャルを活かした観光を創出していく

丸岡城本丸を活用し、観光・賑わい創出につなげていく／小さくて、華やかでないのが魅力／豊原寺に代表される丸岡城をとりまく歴史の重層さを引き出す

◎周遊したくなる仕掛けをつくり丸岡城周辺に人の流れをつくる

◎食の楽しみを増やす

◎マーケティング・PRに取り組む

基本方針③ 心地よくワクワク感のあるまちを探求する

◎人のアクティビティを豊かにする

住民、観光客、どの世代もが心地よくワクワクするまち、「なんか面白そうだ」と可能性が感じられるまちに。アート・デザイン系、歴史文化系、お城系、自然系、文学系、ウェルネス系、こども系など様々な体験プログラムをつくります。

◎空き家を活かして丸岡城周辺の職・住・遊を混ぜていく

何度でも訪れたいくなる「強い観光地」について

何度でも訪れたいくなる「強い観光地」の基礎となるのは、そこで暮らす人たちの豊かなライフスタイルです。そこにリアリティをもたらすためには地元ならではの生活文化や伝統風習、自然環境や景観の良さ、地場産業が提供する本格的な価値に裏打ちされたきめ細やかな商品や製品、サービスの提供が必要になります。

そのためにはまず、その地域が持っている「本来の魅力、本当の宝」をしっかりと洗い出す必要があります。地元が持つ哲学や思想、美学も継承しなくてはなりません。だからこそ、観光関連事業者だけでなく、農林漁業や商工業に関わる事業者の方々、NPO、市民団体から一般住民まで、幅広い層の人々が主体的に参加しているかどうかが重要になります。そして、地域経営という視点から地域全体を最適化するようなドラスティックな発想転換が不可欠です。

(藻谷浩介/山田桂一郎著『観光立国の正体』新潮社 2016年 47-48pより引用)

施策

まちづくりの基本方針に基づき、
今後5年間で着手していきたい重点計画

施策① 食の開発に取り組む

食でまちに賑わいを創出し、まち全体で集客力を向上させ、観光で稼ぐ意識を醸成していきます。

1. 飲食店の種類を問わずに取り組める食べ歩きのコネクトづくりと商品づくり
2. お持ち帰り、お土産、お使いなどに利用できる特産品づくり
3. 丸岡の食材や食文化をアレンジした新たなメニュー開発
(「滞在拠点」で提供する)

施策② 公民学が中立的にまちづくりに取り組める役割を担う機能をつくる

公共空間の計画について、利害関係者が集まり対等な立場で話し合いができる場、まちをデザインしていく場をつくります。

施策③ お城ファンの寄り合いの場「城小屋」をつくる

小さなお城複合施設「城小屋」を、お天守前公園周辺の空き家を活用してつくります。お城ファンが必ず訪れたい聖地にします。

※お城ファンの交流の場／国内外のお城に関連するミニ資料館／
お城専門書店／鎧の製作工房とレンタル屋／
お城にまつわる小物・古道具類の販売／市民の会の拠点

施策④ 「まちに泊まる素泊まりホテル」と「滞在拠点」をつくる

1. 「まちに泊まる素泊まりホテル」をつくる
※空き家を数軒借り、コンパクトな改修を施し、まちに泊まるをコンセプトとする素泊まりホテル。
2. 「滞在拠点」をつくる
※空き家を活用してつくる、丸岡の豊かなライフスタイルを発信する滞在拠点。
素泊まりホテルのレセプション、飲食店、ショップ、ギャラリーなどを兼ねた小さな文化複合施設。

施策⑤ アクティビティづくりと人づくりをする

丸岡城周辺の楽しみを増やす機会をつくります。アクティビティづくりを通して、住民が観光まちづくりや丸岡城の歴史文化へ興味を持ち、主体的に楽しく参加できるよう人づくりに取り組み、コミュニティの醸成をはかります。

1. 体験型プログラムをつくる（市民の会がコーディネート）

※観光客向け、住民向けなどの体験型プログラムをつくります。

お寺巡りツアー / 豊原寺跡ツアー / 古地図や往来物散策 / 外堀で釣り大会・外堀で川下り / こども達への丸岡城歴史学習散策コース など

2. 丸岡城とのコラボレーション

※丸岡の地域資源と丸岡城をつなげる取り組み

一筆啓上や中野重治と丸岡城をつなぐ「書く」ための場 /

今川節と丸岡城をつなぐ丸岡城下音楽祭

3. 丸岡城本丸を活用した試みを実施する

※丸岡城本丸、しだれ桜広場、お天守前広場などを活用したイベントや

プロジェクトを開催し、お天守の価値を高め、来場者に感動体験を提供します。

アート / ピクニック・キャンプ / 伝統芸能 / コンサート / 野点 / 野外レストラン / ゲーム など

4. 丸岡城の歴史文化が伝わり、体感してもらうツール

（音声ガイドやアプリなど）を強化する

施策⑥ 散策・周遊性向上の仕掛けをつくる

散策そのものを楽しめる仕掛けをつくり、観光客、住民に楽しんでもらいます。

一筆啓上賞や中野重治と越前織とのコラボレーションによる屋外展示 /

丸岡ベンチプロジェクト / 植物で演出 /

バスターミナルから丸岡城本丸までのルートの空間演出

施策⑦ 空き家や空き地の活用で観光まちづくりビジネスを創出する

1. 空き家や空き店舗の利活用コーディネートに取り組む

2. 公共空間や空き地の利活用に取り組む

（お天守前公園にオープンカフェなど）

施策⑧ マーケティング・PRに取り組む

1. マーケティング調査（坂井市への提案）

2. お天守の魅力や新しい見方を凝縮したキャッチコピーづくり

3. 丸岡城大使

4. 多くの人々に応援し参加する心を寄せてもらう、一口城主

5. ビジョンについて説明し、話し合う場をつくる、住民へのPR活動

施策⑨ 内堀五角形周辺の環境整備を促進する（坂井市への提案）

1. 環境整備計画の着手

2. 史跡指定や将来的なお堀などの復元に向けた調査の着手

用語辞典

ブランディングとは、ブランドを構築し、伝える活動全般をいうマーケティング活動の1つです。ブランドとは、「らしさ」=独自性（他と差別化するためのモノ、ストーリー、体験、それらの組み合わせ）です。

マーケティングとは、「企業および他の組織がグローバルな視野に立ち、顧客との相互理解を得ながら、公正な競争を通じて行う市場創造のための総合的活動である」から、ビジョンでは、「観光客を知り、そのニーズと需要を理解して、観光客の満足度を軸に、稼げる観光まちづくりを創造する活動」の意で使用します。

PR(Public Relations)とは、「組織とその組織を取り巻く人間（個人・集団・社会）との望ましい関係をつくり出すための考え方および行動のありかた」「双方向の合意形成作業」から、ビジョンでは、「丸岡（城）と住民（対内的）、丸岡（城）と観光客（対外的）とのよい信頼関係づくり」の意で使用します。

アクティビティを「活動・活気・活発・体をつかう活動や遊び」の総意として使用します。

ビジョンは、観光まちづくりに携わる方々との議論の中で
また、取り組みの検証や改善の中で常に見直していきます。
事の大小にかかわらず、できることは自分達でまずやる
そこから動き出した何かを広げ深める
上手くいかなかったら軌道修正して進めていくというように
多世代多様な人々が関わり合い
事を成していくプロセスを楽しめるまちでありたいと思います。
課題を“丸岡らしさ”に変え
より可能性が感じられるまちにしていくために
行動をおこしていきましょう。

ビジョンの完全版は
下記ウェブサイトかQRコードからご覧になれます。
<http://www.maruoka-kanko.org/simin/vision>



2018 年 3 月

〈 一般社団法人丸岡城天守を国宝にする市民の会 〉